

景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

非製造業で業況の悪化割合が減少

【概況(全体)】

12月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが11.3%(前回調査10.0%)、「悪化」が28.8%(同31.3%)で、業界全体のDI値は-17.5となり、前月調査と比較し3.8ポイント上回った。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、全体の景況DI値は東北・北海道ブロック平均を1.9ポイント上回っているものの、全国との比較では低い水準での推移となった。

【業界別の状況】

業界別では、一部の鉄鋼・金属、卸売業及び建設業で業況の好転割合を維持しているほか、小売業及びサービス業等で悪化割合が減少したことから景況感が回復した。

なお、全国の景況感は、記録的な寒波と天候不順が防寒商材を中心とする冬物需要を上昇させていることに加えて、生鮮品価格の例年になく高騰が売上高を押し上げている一方、雇用難による労務費上昇や原材料コストの増大等にも一層拍車がかかっており、供給減に伴う期待利益の逸失と相俟って、十分な収益改善までには至っていない状況にある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-17.5	-11.5	-19.4
製 造 業	-15.6	-7.4	-17.1
非製造業	-18.8	-14.7	-20.6

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

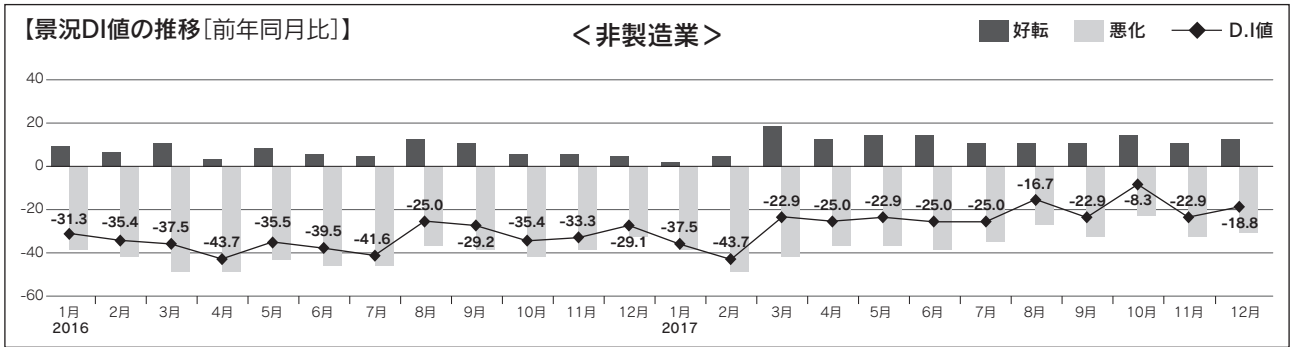
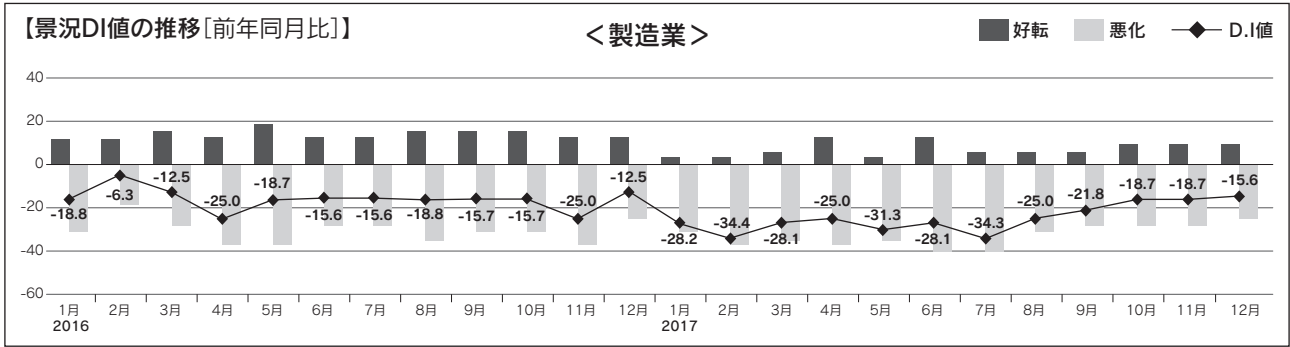
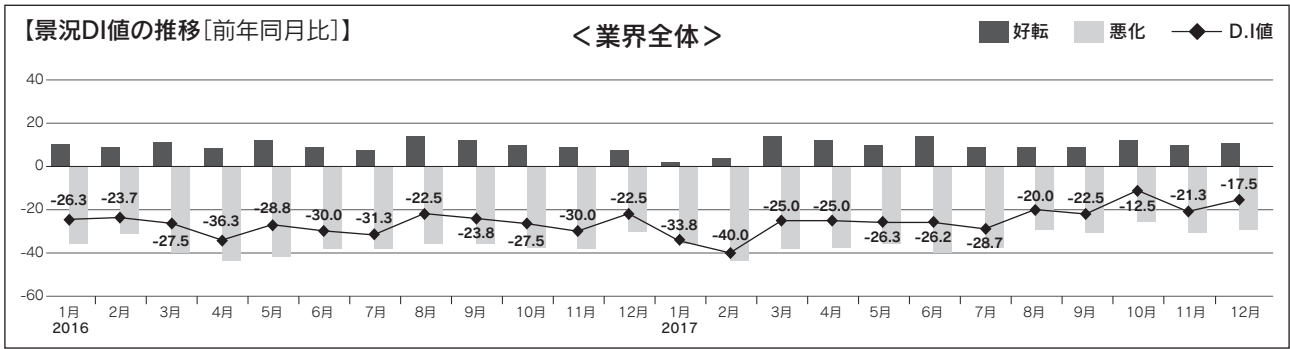
【凡例】 [天気図の見方] 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (パ ン)	売上は天候にも恵まれ前年並みであった。クリスマスケーキは不振であったが、ショートケーキの売上でカバーした。時代の流れに変化が見られた。
食 料 品 (製 麺)	年末商品は予想していた動きより鈍い状況であった。一部の企業が早々に値引きを行い、その余波も影響していると思われる。
食 料 品 (精穀・製粉)	年末の需要期へ向け売上は前年並みであったが、仕入商品の価格や燃料費等の上昇により、コストアップの状況が続いており、経営環境は厳しさを増している。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	例年より気温が低かったため防寒衣料が売れている。そのため、アパレル各社の在庫負担が軽減されており、受注数量は昨年並みか、若干上回る量を確保できている。ただし、生地などの原材料投入が遅れており、各社とも生産ラインのやりくりに苦心している。
織 維 工 業 (織 維)	受注は順調だが、人材不足のため生産性が多少落ちている。労働集約型の業種ゆえの状況である。外国人技能実習生の受入強化を図る企業が増えてくると考えられる。
木材・木製品 (一般製材)	多忙な割に製品価格が上がらず、また、製材用原木が不足しているため、生産量を拡大することができない。原木価格のみが高騰し、収益状況が悪化している。
木材・木製品 (プレカット)	介護老人保健施設、医療施設等の受注により今年度マイナス分を取り戻し、前年並みの出荷坪数、収益を確保できるようになった。1月には新工法の受注も決定し、前年並を確保できる見込みである。
印 刷	12月は繁忙期のため、数年前までは全体的に多忙だったが、この数年は一部のみの忙しさである。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	年末より見積物件が減少しており、新規物件の受注は厳しい状況である。受注済物件は各社とも2～3月頃までは確保しており、多少の格差は見られるが、稼働率も100%前後で推移している。
その他製造業 (曲げわっぱ)	未だ需要に対し供給が追いついていない状況にある。良い材料を仕入れるのが難しくなっている。



【業界の声】 ～非製造業～

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果) 12月の売上は、前年同月比103.8%で推移した。関東方面の低温の影響により主野菜の生産量が減少したことで平年より3割以上は高騰している。また、ミカンも2倍ほどの高値となった。

卸売業 (自動車中古部品) 12月に入り、鉄価格が500円/t上昇した。国内、海外とも鉄の需要が好調である。

小売業 (自動車) 12月の新車販売台数は、登録自動車が1,790台(前年同月比94.6%)、軽自動車が1,695台(同111.7%)で、合計3,465台(同102.2%)であった。1年間の状況は全体で前年累計比104.0%と堅調に推移した。

商店街 食料品、家電、酒類販売は前年並みの売上、身の回り品については前年同月を下回った。(秋田市)

歳末大売り出しの「共同ちらし」の集客効果で普段の月より売上が上がったようであるが、昨年との比較では景況は悪化している模様。(湯沢市)

サービス業 (自動車整備) 自動車検査台数実績では全体で前年同月比6.1%減少した。内訳は登録車が9.5%の減少、軽自動車も1.8%の減少となった。また、4月～12月累計では対前年同期比0.2%の減少となり、初めて減少に転じている。

サービス業 (タクシー) 乗務員の減少が止まらない状況にあるが、12月は幸いにも曜日の並びに恵まれた上に、道路状況が良かったことから忘年会などの繁忙時期の稼働(回転)が良かった。

建設業 (管工事) 平成29年(1月～12月)の組合取扱資材の売上高は、前年比で2.5%アップしたがほぼ昨年と同額で推移しており、最終的には昨年と同程度の決算になると思われる。(中央地区)

建設業 (電気工事) 12月も動きは鈍かった模様。一部スポット的に資材の需要はあったものの、総じて精彩を欠いた月となった。(中央地区)

運輸業 (トラック) 年末の繁忙期のはずだったが、貨物の量も多くなく、前月、前年同月ともに売上、収益は横ばいとなっている。燃料についても11月の値上げ以降、断続的な値上げとなっており、今後も値上げが見込まれる。(県南地区)